



Title	初心忘れるべからず
Author(s)	長谷川, 淳; Hasegawa, Jun
Citation	北海道大学留学生センター紀要, 5
Issue Date	2001-12
Doc URL	<a href="https://hdl.handle.net/2115/45616">https://hdl.handle.net/2115/45616</a>
Type	other
File Information	BISC005_001.pdf



## 初心忘れるべからず

留学生センター長

長谷川 淳

留学生センター紀要も第5号を発刊できることとなった。

本紀要は、留学生センターを主たる活動の場としている教官や研究者の研究活動成果を広く世に発信するとともに、これに基づいて寄せられるであろう多方面からの評価を、研究活動の心の糧とし、さらなる精進のためのバネとすることを目的に発刊してきている。幸いにも、これまで多くの皆様から真摯なご意見と励ましをいただいております、関係者一同、有り難く思うと同時に、あらためて心が引き締まる思いである。

第4号の紀要発刊にあたって、その巻頭言の中で、本紀要の定期刊行は軌道に乗ったと書かせていただいた。留学生センター長としては、このような宣言をすることにより自らを追い込み、奮い立たせ、紀要の定期刊行を真に定着させなければならないという思いであった。しかし、関係各位の普段の努力と活動は、私の思いが杞憂にすぎなかったこと、定期刊行の宣言が決して空手形でないことを、もの見事に証明してくれた。

大学の果たすべき役割・使命の中心が、(1)有能な多くの人材を養成し世に送り出すことと、(2)独創的研究を推進し成果を社会に還元すること、であることは、第4号の巻頭言でも述べた。また、留学生センターの教官陣が留学生の教育と指導に邁進して大きな教育成果をあげてきているだけではなく、研究面でも活発な活動を推進すること、さらに自己研鑽と努力を惜しまない覚悟が必要であることを述べた。紀要のような研究活動に関する報告集のありようは、その組織の活性の度合いを如実に示している。個々の研究者の真摯な姿勢と自己研鑽の如何がそのまま写し出されるし、厳しい評価にもさらされることとなろう。第5号の紀要発刊に際し、初心に返って、このことを再確認したいと思う。